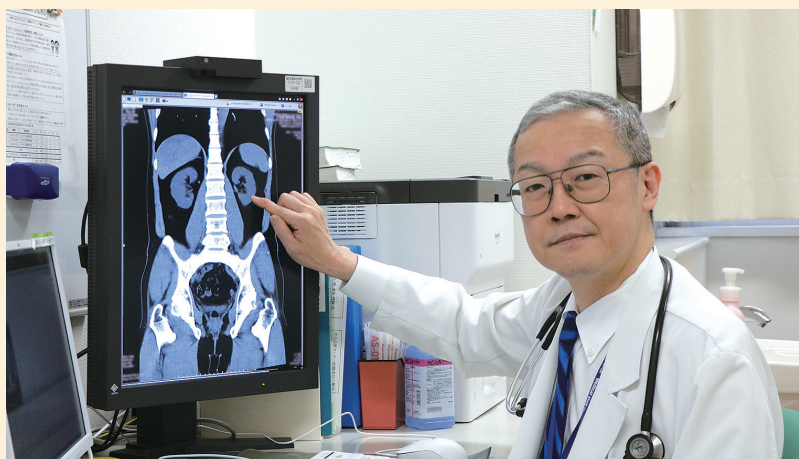


# 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



# No. 13

2022.1.1

## ごあいさつ

副院長 岡田 浩一

埼玉西南部エリアの地域医療を支える医療機関の皆さま、新年、明けましておめでとうございます。また、日ごろから病診連携を通じて当院が大変お世話になっております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

改めまして、大学病院に患者さんをご紹介いただくメリットはどのようなものでしょうか？かかりつけ医の先生方からまず第一に期待されているのは、大学病院ならではの先進的な専門医療の提供と思われます。当院は3kmほど離れた埼玉医科大学国際医療センターとは兄弟のような関係で、国際医療センターが「がん」、「心臓病」、「救命救急」を中心とする急性期医療を得意とする一方、当院は慢性期疾患を中心としつつ、地域の中核病院としてどのような病気にも対応しています。特に当院における診療の特色としては、診療科の垣根を超えた医師の協力体制に加え、多彩なメディカルスタッフからなるチーム医療を提供できることがあげられます。さらに埼玉医科大学グループの協力体制を通して専門医療の提供だけにとどまらず、同敷地内に位置する丸木記念福祉メディカルセンターが有する回復期リハビリテーション・地域包括ケア病床で当院での治療を終えたのちに自宅退院をめざしたりリハビリテーションがシームレスに受けられ、また必要に応じてこれも近隣に位置するMORO HAPPINESS 館では介護支援センターとしての訪問診療・看護サービスを提供しています。このように埼玉医科大学グループは、近隣の医療機関の皆さまと連携しつつ、地域住民の医療と福祉をトータルに支えることを使命としています。

私を含めた当院の医師は、ご紹介いただいた患者さんの二人目の主治医として誠意をもって診療にあたり、先生方と連携しつつ埼玉西南部エリアの地域医療に貢献していく所存でおります。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

## Contents

ご紹介	2
特殊な治療のご紹介(呼吸器内科)	
診療科のご紹介	3
耳鼻咽喉科・神経耳科 歯科・口腔外科	
医師のご紹介	4
神経精神科・心療内科 救急センター	
病院長からのメッセージ	
看護部から	5
カルナ(インターネット予約システム)について	6
電話初診予約について	7
提携医療機関から	
横山内科循環器科医院	6
菊地病院	7



## 特殊な治療のご紹介

当科では外来部門アレルギーセンターにおきまして、重症喘息の生物学的製剤（抗体）治療に特に力をいれております。今日、気管支喘息におきます全身性副腎皮質ステロイド薬の連用、あるいは短期投与でも反復されている場合には、全身的副作用のリスクが増大することが明確化されてきております。ひとつには気管支喘息という疾患の特性上、比較的若年発症も多く治療を要する期間が長いこともあり、ステロイド総投与量なども問題になります。これらの患者さんに対してステロイドの減量・離脱を図るべく、抗IgE抗体、抗IL-4受容体α抗体、また抗IL-5療法製剤などが大きな成果を発揮してきています。

また当科では典型的なダニ・アレルギーの気管支喘息に対する“体質改善”の治療でありますダニ・アレルゲン免疫療法については日本を代表する施設です。特に数日間の入院で導入する急速導入療法は即効性の点でも長期予後改善作用の点でも大きな成果をあげています。数日間の入院で導入した後は、外来で2～4週の維持注射を最低3年以上は継続していただき、長期予後の改善を図ります。

呼吸器内科医や臨床検査技師などのメディカルスタッフに加え、耳鼻科・歯科口腔外科・循環器内科・小児科・神経精神科など多岐に渡る専門ドクターと連携・協力しながら質の高い睡眠診療を行っていますので、ご相談いただければと存じます。

### 開業の先生方へ医療連携のメッセージ

平素より大変にお世話になっております。呼吸器疾患は早期に治療介入を行うことが重要です。喘息で全身ステロイドを要した症例や、臨床的に不安定なCOPD、特に間質性肺炎の疑い例ではご紹介を頂戴できればありがたいものと存じ上げます。大学病院での管理が必要でない場合には逆紹介をさせていただきます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

永田 真（呼吸器内科 診療部長 教授）

外来☎：049-276-1197



日本アレルギー学会  
「ダニアレルギーにおけるアレルゲン免疫療法の手引き」作成委員会  
(五十冊刷)

代表者  
永田 真 埼玉医科大学呼吸器科/アレルギーセンター

耳鼻咽喉科  
大久保公裕 日本医科大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科  
岡本 美幸 千葉大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科  
上塚 真 山梨大学大学院総合医療学系耳鼻咽喉科  
後藤 雅 日本医科大学多摩北上病院耳鼻咽喉科  
藤井 大樹 千葉大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科  
鈴木 元憲 名古屋市立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科  
増山 敬祐 山梨大学大学院総合医療学系耳鼻咽喉科

小児科  
清野元宏 国立病院機構横浜医療センターアレルギー性疾患研究部  
大崎 勇成 埼玉大学医学部小児科  
藤沼 俊雄 東京慈恵会医科大学附属三病院小児科  
下条 康樹 千葉大学大学院医学研究科小児病態学

内科  
若水 真司 近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科  
田中 明彦 昭和大学医学部内科アレルギー科  
谷口 正美 国立病院機構横浜医療センターアレルギー科  
中込 一之 埼玉医科大学呼吸器科/アレルギーセンター  
山口 正雄 埼玉大学医学部呼吸器・アレルギー内科

アレルギーセンター  
松下 祥 埼玉医科大学医学部皮膚学

ダニアレルギーにおけるアレルゲン免疫療法の手引き (改訂版)

JSA 一般社団法人日本アレルギー学会

また当科は睡眠呼吸センターも担当しています。同センターでは睡眠時無呼吸症候群だけでなく、睡眠に関するさまざまな病気や不安・悩みを抱えている患者さんに適切な医療を提供し、さらに疾患に関して正しい知識を身に付けて頂く事を目標としています。睡眠診療に精通した

● **耳鼻咽喉科・神経耳科 講師 松田 帆 (マツダ ハン)**

難聴を有する方は人口の10%程度といわれていますが、みなさんが医療機関を受診しているわけではありません。また過去に、「手術しても治らない」と言われたため専門医を受診していない患者さんもいます。近年手術機器や人工聴覚器の進歩は目覚ましく、聴力改善率が飛躍的に改善しています。合併症もほとんどなく、安全な手術です。当科の耳科手術件数は県内有数です。

高度難聴に対する人工内耳埋め込み術は、小児から高齢者まで幅広い年齢の患者さんに適応があります。術後は多くの患者さんが家族や友人との会話を

を楽しめるようになり、QOLが劇的に改善します。耳だれの原因は多岐にわたり、正確に診断されていない方も多く、当科では顕微鏡により鼓膜を詳細に観察しています。慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎では、外来処置を継続しながらまず保存治療を行ってから、手術の要否を判断します。手術は安全性と確実性に配慮して、顕微鏡と内視鏡を併用し、最先端のレーザーや、神経モニタリングを使用しています。

看護師、言語聴覚士など多職種と連携しながら最善の治療法を選択しています。難聴、耳だれで困りの患者さんがいましたら、ぜひ一度御相談下さい。



モーニングカンファレンス風景

**診療部長のご挨拶**

アブミ骨手術、人工内耳・中耳といった高度な耳の手術を得意分野としています。しかも、懇切丁寧な説明で手術前後の不安軽減につとめる優しい医師ばかりです。また、慢性めまいの原因となる「外リンパ瘻」の診断法CTP検査を世界で初めて開発し多くの患者さんが恩恵を受けています。お困りの患者さんがいらしたら是非ご相談ください。

耳鼻咽喉科・神経耳科 診療部長 池園 哲郎  
外来☎：049-276-1296

**診療科のご紹介**

● **歯科・口腔外科 准教授 佐藤 毅 (サトウ ツヨシ)**

当科には、口腔外科専門医・顎関節専門医・口腔外科認定医・歯周病認定医が在籍し、開業歯科医院では対応できない疾患の治療を行っております。例えば、口腔領域の嚢胞や腫瘍（良性・悪性）、医科との連携が必要な歯科治療、口の開きにくくなる疾患（顎関節症、咀嚼筋腱膜過形成症など）、噛み合わせがおかしくなる疾患（顎変形症）などです。また顎骨骨折などの顔面外傷や歯が原因による顔面領域の急性蜂窩織炎、抜歯後出血、等の急患には当直体制で対応しています。

当科では、特に咀嚼筋腱膜過形成症と顎変形症の治療を専門としています。咀嚼筋腱膜過形成症

は2016年に正式な保険病名として登録され、咀嚼筋の腱や腱膜が病理学的に過形成を引き起こし厚くなり、筋の進展が妨げられ口が開かなくなる病態です。治療法は手術による腱および筋突起の切除と開口訓練です。当教室が世界に先駆けて治療法を確立し、本疾患の英語論文数は当科が世界で最も多く、その病態解明に取り組んでいます。顎変形症は上顎骨・下顎骨の形態・大きさの異常により骨格的な咬合の異常・歯列不正を引き起こす病態です。矯正治療（保険適応）のみならず、顎骨の骨切り手術を行い治療します。



外来における抜歯術

**診療部長のご挨拶**

新型コロナウイルス感染は収束の気配を見せています。当科は口腔領域の疾患を扱うため、感染拡大に気を遣って参りました。今後も最新の注意を払って診療いたします。口腔領域のスペシャリストとして、地域の医院・歯科医院との連携を強化していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

歯科・口腔外科 診療部長 佐藤 毅  
外来☎：049-276-1307

● **神経精神科・心療内科 教授 桑原 斉 (クワバラ ヒトシ)**

2021年7月1日より埼玉医科大学病院、神経精神科・心療内科に勤務しております。専門領域は児童精神医学になります。10月1日より埼玉医科大学病院で、児童精神の外来をはじめ、今後はかわごえクリニックでの診療も予定しております。

児童精神科の診療は、診察室で完結することは少なく、家庭や教育の現場、福祉機関との役割分担によって最適化されると考えております。ですので、地域の皆様とそれぞれの施設・機関でできることと、できないことを共有して、円滑に診療を進めていきたいと強く願っております。また、成人期へのトランジションを含めて地域の医療機関の方々とも相互に協力ができる仕組みが構築されていくように努めたいと考えております。

20年以上、標準的な精神科医療を追求していますが、自分の診療が完璧かというとはそうではなく、未だに修正の余地は多々ありそうです。ですので、地域の皆様からより良い解決策があれば、積極的に

ご提案いただければありがたいと思っております。また、皆様との積極的な情報交換の成果を診療に訪れる子ども達に還元したいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



**医師のご紹介**

● **救急センター センター長 高平 修二 (タカヒラ シュウジ)**

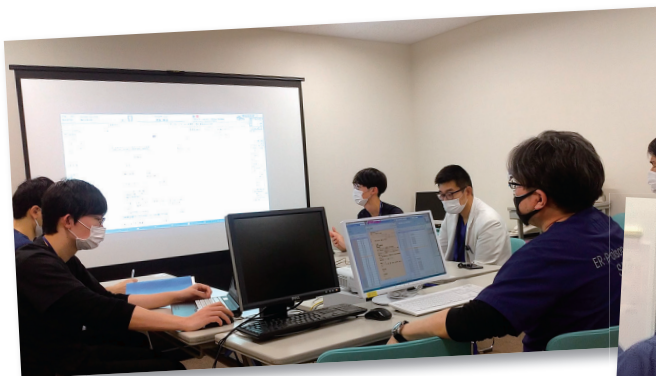
埼玉医科大学病院救急センターは、様々な病気や怪我に24時間体制で対応する病院をあげての横断的な組織です。最初に看護師が患者さんの重症度判定(トリアージ)を行い、診察の優先度を決め緊急度の高い患者さんから順に診察を行います。初期治療(応急処置)を行いながら全身状態の安定化をはかります。現状は日中、救急科、臨床中毒科、総合診療内科、緩和医療科の医師が担当し夜間・休日は内科系や外科系の医師が担当しています。原則、各診療科へ入院を振り分けますが、帰宅困難で振り分けも困難な患者さんは内科系の場合は総合診療内科へ入院をお願いし、それ以外の患者さんは緩和医療

科と入院管理を行っています。

2021年11月22日よりコロナ禍により中止していた西入間消防組合とのワークステーションを再開しました。救急ワークステーションとは日中、救急隊が当院に常駐して必要と思われる救急患者の要請の際には救急医を救急車に同乗させて現場にむかうシステムです。

また日本初となる臨床中毒科は様々な中毒症例を受け入れています。中毒症例以外も含め重症症例の全身管理は集中治療部の芳賀教授を中心にICUで行っています。

我々は24時間365日、地域の救急患者さんの受入要請を断らない、さらには搬送困難受入医療機関として地域の皆様に貢献できるように救急科を発展させていこうと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



救急患者外来レビュー風景



## ● 病院長からのメッセージ



新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年も変わらぬお付き合いをよろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の収束には、まだ時間がかかりそうですが、今後も職員一丸となって対応して参ります。昨年赴任された先生方と共にどうぞよろしくお願いいたします。

神経精神科・心療内科教授として昨年7月に赴任されました桑原斉教授は、児童青年精神医学を専門にされていますが、精神科領域においても幅広く診療されています。桑原先生は日本精神神経学会専門医・指導医、日本児童青年精神医学会認定医、こどものこころ専門医など多くの資格をお持ちですが、この分野は昨今非常に注目されている分野で、大学病院はその大事な役目を担っていると認識しています。

児童精神科の診療は、児童自身のみならず、地域や家族、福祉の問題が密接に関連しており、病院のみならず近隣の様々な施設や地域との密な連携が必須であります。また、小児科とも随時連携が必要であることは言うまでもありません。さらに、子供を診るだけでなく親や関係者の評価なども必要な事

も多いと思われます。桑原先生はこれまでの豊富な経験を活かし、この分野において地域の方々のお力になれると確信しております。受診が必要な患者さやお困りの方がいらっしゃいましたら、是非先生にご紹介頂くよう何卒よろしくお願いいたします。

救急センターの高平修二先生は、埼玉医大国際医療センター救命救急センターにおいて長い間活躍されてきましたが、本年度から当院の救急センター長に赴任されました。当院はこれまで救急と中毒センターが両立していましたが、現在では救急センターと臨床中毒センターが独立しています。高平先生は持ち前のバイタリティーで、積極的な救急患者の受け入れや研修医の指導など幅広く活躍されており、すでに当院になくはならない存在です。

当院の救急症例は内科系患者さんが多い傾向にありますが、外科系においても勿論随時受け入れを行っています。今後ますます高齢化がすすみ、単一の疾患のみの患者さんは少なく、疾患の多様化や複雑性が増し、多角的見地から診療を行う必要性が増しています。当院においても救急体制の強化、新たな構築を目指し、近隣の先生方と緊密に連携をしていきます。高平先生を中心に先生方から信頼される救急医療の実践をしてきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## ● 看護部から

### 緩和ケア認定看護師の活動紹介

埼玉医科大学病院緩和ケアチームは、緩和医療科をはじめ神経精神科、救急科、リハビリ科、耳鼻咽喉科の医師、薬剤師、管理栄養士、救急救命士、臨床心理士、緩和ケア認定看護師で構成し、患者さんやそのご家族の苦痛を緩和して、その人らしく安心して生活できること（QOLの維持・向上）を目指し、入院、外来問わず継続して支援しております。



(患者さんとの面談風景)

入院中は、院内すべての病棟・診療科からの依頼を対応し、患者さんやご家族へ寄り添い入院中でもその人らしく生活できるようにケアを行っ

ております。退院後もその人らしく生活し、苦痛なく安心して過ごせるように、在宅サービスを提供する事業所と連携を取り、地域を一つのチームとして患者さんにケアが提供できるよう継続して支援しております。令和元年5月より当緩和ケアチームにて

ロコモ・フレイル外来を開設しております。当外来では急性/慢性、がん/非がん、年齢を問わず、日常生活動作が低下した



(緩和ケアチームカンファレンス)

患者さんの「ロコモ」や「フレイル」を評価して、その予防を患者さんと一緒に考えていきます。随時対応しますので、お気軽にお問い合わせください。

#### ＝ロコモ・フレイル外来受診基準＝

- ・ 痛いところがある
- ・ 体重が減少した
- ・ だるさ・疲労感がある
- ・ 筋力が低下した
- ・ 呑み込みが悪い
- ・ 物忘れをする
- ・ 医療施設をまよめたい
- ・ 薬が多くて困っている
- ・ 健康不安がある
- ・ 健康相談がしたいなど

ロコモ・フレイル外来（東館2階）  
 岩瀬 哲（緩和医療科教授）  
 宮部 拓也（緩和ケア認定看護師）  
 外来☎：049-276-1197

# カルナ（インターネット予約システム）について

## 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

## 提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

### 1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届の「カルナ希望 あり」に○をしていただき提出してください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用案内書類を同封し別途送付いたします。

新規カルナ登録医療機関 (R3.8 ~ R3.10)			
田中眼科医院	比企郡小川町	理事長	田中 真理子
さい眼科医院	埼玉県川越市	理事長	蔡 敏昌
くりばやし眼科	埼玉県川越市	院長	栗林 幸平
細谷医院	埼玉県入間市	理事長	細谷 雄治
林眼科	埼玉県熊谷市	理事長	林 直樹
ふるや医院	埼玉県飯能市	院長	古屋 大典

## 提携医療機関から

### 医療法人幸和会 横山内科循環器科医院(東松山市)

東松山市において、2013年4月に門脇医院を継承し、2014年4月から現在の名称に変更、循環器疾患と生活習慣病の診療に従事しております。これまで埼玉医科大学関連3病院で300名近い患者様を入院加療頂きました。埼玉医科大学病院様には、外来診療で診断に難渋する多数の患者様をご診察頂いています。特に胸痛や呼吸困難、倦怠感を訴えるも基礎疾患が見つけれない時は総合診療内科、心腎関連症候群では腎臓内科に大変お世話になっております。予約で使用するカルナシステムは、予約状況を迅速に確認でき、予約ミスも防げる為、必要不可欠なシステムです。多くの医療機関が取り入れることで、医療現場がより効率化されると思います。



院長：横山 広行

### 医療機関情報

診療科目：循環器内科 / 心臓内科 / 内科

診療時間：午前 9:00 ~ 12:00

午後 16:00 ~ 18:30

土日：9:00 ~ 12:00

休診日：木曜日・土日午後・祝日

ホームページ：<https://www.yokoyama-cl.net/>



## 電話初診予約について

### 電話初診予約について（2021年10月1日から開始）【医療機関専用】

電話でご紹介頂く患者さんの初診予約を行います。

医療機関からの申し込みになりますので患者さん・ご家族等からの電話受付はしていません。

※「電話初診予約ご案内書」は、下記 URL よりダウンロードしてご利用下さい。

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/pdf/tel2021.10new.pdf>

ご紹介患者さんの受診料が決まりましたら、予め電話初診予約ご案内書（PDF）をご用意してください。予約センターへ電話（049-276-1179）連絡の上、予約を取得し電話初診予約ご案内書に必要事項（記入例参照）を記入してください。

※ただし、予約枠の無い診療料がありますので、予めご了承ください。

患者さんへ電話初診予約ご案内書はお渡しし、受診当日に初診窓口で紹介状等とともに提示していただくようお願いください。

受診後は、診察させていただいた医師より報告書をお届けいたしますので、ご確認をお願い致します。

#### 埼玉医科大学病院 予約センター

受付時間 月曜日から土曜日（日曜・祝日を除く） 午前8時30分から午後5時

救急患者のご紹介は直接、救急センターへご連絡下さい。

TEL：049-276-1199 FAX：049-295-8007

### 医療法人信猶会 菊地病院（深谷市）

地域の皆様に支えられ、おかげさまで深谷の地に開業し、約70年が経ちました。当院は産科の他、婦人科、小児科、内科、呼吸器内科、アレルギー科、麻酔科を併設しております。妊娠前の不妊外来から分娩後のお子様、ご家族のプライマリーケア（かかりつけ医療）を提供しています。

カルナシステムの利用により、埼玉医科大学病院への紹介がスムーズに行え、かつ外来待ち時間も短縮されているようで患者さんにも好評価を頂いております。（できれば、さらに、多くの予約枠を用意していただければ幸いです。）

院長：菊地 信也



左：院長 菊地 信也 右：内科アレルギー科 菊地 泉

#### 医療機関情報

住 所：〒366-0801 深谷市上野台371

T E L：048-571-0660

診療科目：産科 / 婦人科 / 内科 / 小児科 / 呼吸器  
内科 / アレルギー科 / 麻酔科

診療時間：午前9時～12時  
午後4時～6時

休 診 日：日曜・祝日・金曜午後・土曜午後

ホームページ：<http://www.kikuchi-hosp.or.jp>



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長  
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

## 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199  
地域医療連携室 (カルナ・FAX 紹介) : 049-276-1876  
入退院・患者支援室 : 049-276-1484

医療福祉相談室 (退院調整) : 049-276-2119  
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



## 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース (13号)

発行 : 埼玉医科大学病院  
発行責任者 : 篠塚 望  
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室  
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦  
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室  
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
発行日 : 2022年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。